

One Point ワンポイント

(社)日本臓器移植ネットワークでは、講演会や看護学校、高校や大学の講義等で移植医療について講義ができる「日本の移植事情」解説セットを作成しています。パワーポイント(CD-ROM)と解説書をセットにし、そのまま話すことで、誰でも共通の情報が発信できるようになっています。学校の授業や移植医療の普及啓発にぜひ活用ください。

解説セットをご要望の方は、当社ホームページよりご依頼ください。
URL : <http://www.jotnw.or.jp/donation/goods.html>

「日本の移植事情」解説セット



当社ホームページでは、臓器移植について、やさしく解説した「臓器移植解説集」も閲覧できます。

URL : <http://www.jotnw.or.jp/studying/01.html>

臓器移植解説集



柄本家、 臓器提供について、 話し合う。

2012年度ACジャパンの支援キャンペーンポスターです。俳優の柄本明さんとご家族が初めて揃って出演されています。

臓器提供について家族で話し合って意思表示しておくことを呼びかけています。ポスターの掲示にご協力いただける方は、下記までお知らせください。



携帯やパソコンから 臓器提供の意思を登録しましょう!

ホームページ <http://www.jotnw.or.jp>
モバイルサイト <http://www.jotnw.or.jp/m>

パソコン、携帯電話から臓器提供に関する意思の登録が可能です。登録後、IDの入った登録カードが発行され、本登録が完了すると、臓器提供の際に本人意思を確認する対象となります。



臓器移植に関するお問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-5-16 晩翠ビル3階

携帯電話からは

☎0120-78-1069 ☎03-3502-2071

<http://www.jotnw.or.jp> にもさまざまな情報が掲載されています。

臓器移植 検索



JOTNW (社)日本臓器移植ネットワーク

臓器を提供してもよいという人(ドナー)やその家族の意思を生かし、臓器を提供してもらいたいという人(レシピエント)に最善の方法で臓器が贈られるように橋渡しをする日本で唯一の組織です。

<http://www.jotnw.or.jp/m>

●医療機関の皆様へ

脳死後でも心停止後でも、ご本人の意思が不明な場合、ご家族の承諾で臓器が提供できるようになりました。ドナー情報には、24時間対応しております。ご本人の臓器提供を希望する意思表示があるか、ご本人の意思が不明な場合に、ご家族が臓器提供について説明を聴くことを希望されましたら、下記フリーダイヤルにてお知らせください。

ドナー情報用全国共通連絡先 ☎0120-22-0149

教師として 移植者として
ドナーの想いを伝えたい

生きること、命の大切さを
生徒達に伝えています

～やりたいことができない呼吸苦～

私は十数年前、職場の健康診断で肺に若干の影がうつり再検査を受けた結果、難病(リンパ管筋腫症)とわかりました。治療法がないこと、今後の経過、予後などについて説明を受けました。

症状としては労作時の息切れがあり、階段では1段昇っては呼吸を整えと、階段は私にとって恐怖そのものでした。階段ばかりではありません。人と同じペースでは歩けなくて、ゆっくりゆっくり、そして呼吸を整えるために休憩、お風呂に入りシャワーするのも呼吸が苦しく、寒くても呼吸を整えるのが最優先、そして物を拾うなど些細な行動までが呼吸苦の状態になりました。人はどんな時でも酸素を使って動いていることを実感しました。何をやるにしても呼吸苦が伴うので、やりたいこととできることが違うことを思い知らされました。やりたいことができない、諦めなくてはならない辛さにはかり知れないものでした。度重なる肺炎に、もうこれ以上治らないのではと思う日もあり、死に恐怖を覚えたこともありました。



闘病中

～移植まで揺れる心～

自分が難病であることを知った時は「臓器移植法」がまだ施行されておらず、移植することは考えていませんでした。この頃、今まで元気が取り柄であった自分がこんな難病に罹患すること事態受け入れがたく、自分だけは治るとさえ考えていた時期もありました。医学書を見ても載っていないこの難病に戸惑いを感じましたが、インターネットで同病の患者さんのホームページを偶然に知ることができ、ここで初めて移植という道があることを知りました。移植についてはまだまだ未知の世界の話でしたので、自分自身何が何だかよくわからなくて、脳死の方から臓器をいただくという言葉でしか、頭に入ってきませんでした。

難病発症から数年後、セカンドオピニオンを受けた医師から肺移植の準備(レシピエント登録)を勧められました。決して今の病状がいい状態ではないと聞き、この時初めて自分が重篤な状況におかれていることを知りました。医師は移植によって、在宅酸素から解放されること、通常の生活を取り戻せること、成功すれば予後がいいこと、手術は

必ず成功するとは言えないことなどメリット、リスクなど説明をして下さいました。また、レシピエント登録をしてもすぐに移植ができるわけではない、移植をしたいと思ってからの登録では命が間に合わない、とにかく登録だけして移植をするか否かはその後に考えてもいいと言われました。すぐに登録はしましたが自分が本当に移植をするのかわかりませんでした。自分のこととは考えていなかったと思います。

レシピエント登録をしてからは病状も徐々に進行し、肺炎を起こして入院した時はこのまま病院生活になるのでは、このまま死ぬのではないかと考えるようになっていました。ですが、レシピエント登録をしてからは、この息苦しい生活から解放されたいという気持ちから移植を実感し始めました。脳死臓器移植がニュースで取り上げられる度に自分の順番がいつくるのか、何を準備すればいいのか徐々に考えていくようになりました。体調が思わしくない時は移植すればこの苦しみから解放されると思いつつも、間に合わなかったら紙一重のところでは心は揺らいでいました。そして一番に悩んでいたことは人の死を待たなければならない辛さでした。この辛さは移植手術直前まで消え去ることはありませんでした。

～とにかくこの命を大切に～

朝早く1本の電話がなりました。臓器のご提供があるという連絡でした。いよいよ自分が移植手術を受ける日が来ました。限られた時間の中で慌ただしく準備が行われていたせいか、考える時間があまりなく、手術に対する不安もありませんでした。準備をしているさなか、私より先に肺移植をした同病の方が病室を訪ねてくれました。その姿に私は驚きました。酸素をしなくて元気に歩いている。「こんなに元気になれるよ」の言葉に救われました。私が夢見ていたことが現実になるのだとわかりました。その頃からだと思います、初めて「感謝」という言葉が頭をよぎるようになっていきました。

手術は成功し、執刀医からはこのタイミングで移植手術ができなければ、命は数カ月だったであろうと。命あることがありがたかったです。ドナーへの想いが強くなりました。

術後みるみる体への変化を感じ、低酸素からくるチアノーゼで紫色だった唇や指先がピンク色に。呼吸が苦しくて仰向けに寝ることができなかったのですが仰向けで寝られる。手術から数年たった今でも動ける喜びを感じ、とにかくこの命を大切にしたいと思います。



移植直後

生きていられる喜びを感じる中で、悲しく辛い思いをすることも…。移植を希望し手術に向かった仲間や待機中の同病仲間と2度と連絡が取れなくなることでした。自分が仲間の分まで頑張らなくては、そしてドナーの分も。自分の命は自分だけのものではない…。

～ドナーの想いを伝えたい～

ドナーについては知ることはできませんが、ドナーが誰かのためにと思っていたことには間違いがないと思い、私はその想いを伝えたいと考えました。

私は自分の職業である保健体育教諭をいかに、保健の授業において生徒達に臓器移植について話をしています。生きること、命の大切さについて何かを感じてもらいドナーの想いが伝わればと考えています。

家族や私に関わる全ての人に感謝します。私の命を救って下さったドナーとそのご家族の勇気ある選択に敬意を表し、ドナーのご冥福を祈ります。



移植後教職に復帰